

Case

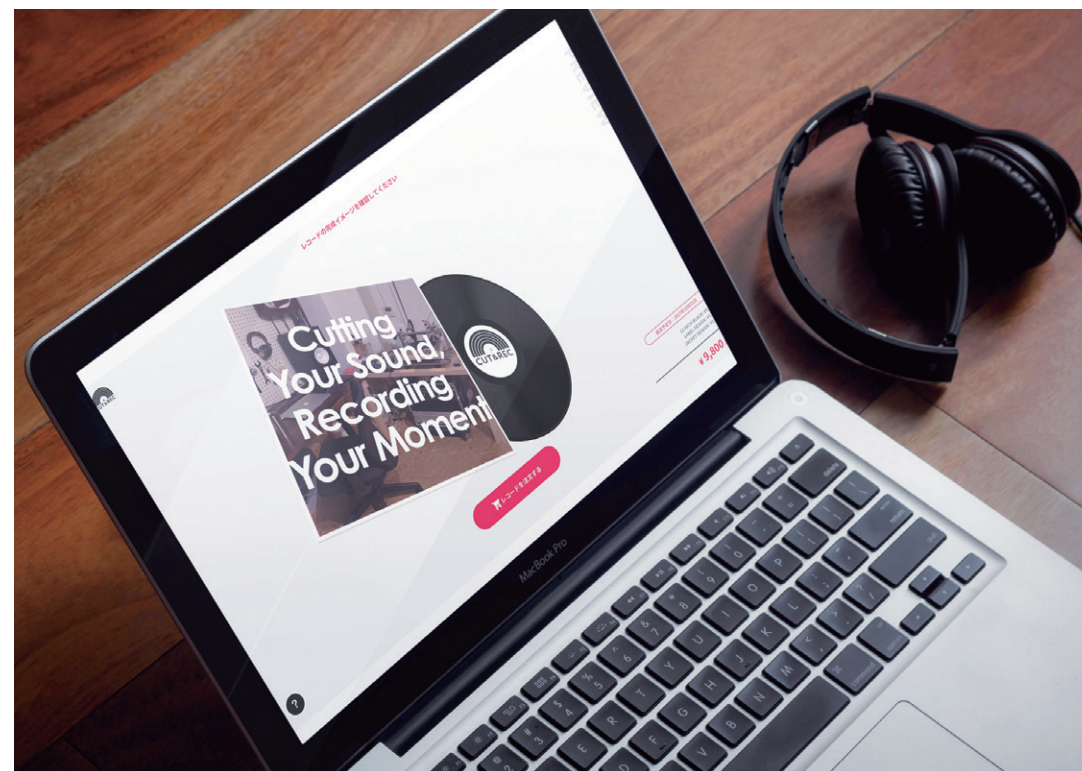
20

オンラインで簡単に。
世界に1枚だけのレコード製作サービスの開発

アナログレコードへの注目の高まりを受けて、世界に1枚だけのオリジナル・レコードをオンラインでオーダーし作成できるサービスの試作開発を行った。
補助事業完了後も開発を続け、2017年10月に本格的にサービスを開始した。



▲導入したレコードカッティングマシン



▲Webからアナログレコードをオーダーメイド注文できる

事業計画の概要

本サービスは当社の持つ Web 関連技術を活用し、Web のみで受注を完了できるものであるが、補助事業では主に紙ジャケット制作工程、レコード制作環境の設計を行った。補助事業の成果として、既存商品と比較して耐久性に遜色ないジャケットの試作品、レコード盤の試作品を完成させた。

補助事業のきっかけ

情報サイトメディアを運営し音楽業界のトレンドに触れる中でアナログレコード市場の再興に着目した。当初は外部委託で制作する手段を模索していたが、小ロットでジャケットまで作れるサービスがないことが分かり、自社で取組むことにした。

事業化状況

補助事業終了後も、ジャケット制作工程の修正や Web 受注システム・ホームページの作成を進めた。試験運用の後、2017年10月に、『CUT&REC（カット・アンド・レック）』サービスとして運用を開始した。レコード1枚からジャケットをカスタマイズし、Web で注文を完結できるサービスは世界的にもほとんど存在しないものである。

未経験の「ものづくり」に
悪戦苦闘

ジャケット制作に関しては業務的な知識がほとんどなく、流通しているレコードの分析からスタートし、紙の選定、ラミネートの方法、整形の方法など試行錯誤を重ねました。商品としての品質はもちろん、生産性の最適化も踏まえた工程設計を行いました。レコード制作工程では、当初導入予定していたカッティングマシンの発売予定が中止になるというアクシデントに見舞われましたが、急遽知人のアドバイスを受けて別の業者を見つけて導入に至りました。導入設備を変更したことにより、その設備に合わせた周辺器材や動作環境を再度設計することとなりましたが、何とかレコードの試作品制作まで行うことができました。補助事業期間には決まっていたためアクシデントによる作業負荷は大きくなったものの、逆に期限があることで事業化に必要な活動を集中的に行うことができたという側面もありました。

デジタル世代に
アナログの良さを伝えたい

『デジタル』と『アナログ』を両方体験した世代として、アナログの良さをデジタルしか知らない若い世代に伝えたい、形あるものとして残せるアナログの良さを感じてもらいたい、という思いを持っています。そこで「Webで注文してアナログで届く」というスタイルが、若者にアプローチしやすいのではないかと考え本サービスを構築しました。現状のサービスの利用者は、プロ、セミプロのミュージシャンが自身の演奏を記録するための利用や、仲間・友人の結婚式のプレゼントとしてメッセージを収録して贈るなどの冠婚葬祭における贈り物ギフトとしての利用が中心となっています。今後は、パソコン以外の媒体でより手軽に注文できる方法を拡大していくことで、若者を中心にさらに購入者層の拡大を図りたいです。また、レコードプレーヤーを持っていない消費者にもレコードの良さに触れてもらえるような商品、サービスの開発も進めています。



▲代表社員の諸富栄治氏

▲ジャケット制作風景(上)
記念日の贈り物にも喜ばれている(下)

事業テーマ：1枚から簡単にオーダーできるオリジナルレコードサービスの開発

事業者名：合同会社サウンドロープ 事業年度：26年度

企業概要



当社はDJ機器や電子音楽機器関連の情報サイト・メディアの運営や、オーディオメーカーのWebサイト構築やリニューアル、Web広告運用代行などを事業としている。Webディレクターとして活動していた諸富氏と、音楽機器関連業界に在籍していた橋本氏の二人で2014年2月に創業した。“soundrope”という社名は、当社で運営しているDJ機器・電子音楽機器関連の情報サイトの名称でもある。補助事業で取組んだレコード制作関連事業は、今後Webサイト関連事業に並ぶ当社の中心事業に育成する予定である。

会社名 合同会社サウンドロープ
代表者名 代表社員 諸富 栄治
設立年 2014年
所在地 〒211-0005
川崎市中原区新丸子町765

従業員数 2名
資本金 100万円
TEL 044-387-5500
URL <https://cutnrec.com/>

調査員考察

Web制作を強みとする当社。「アナログの良さを伝えたい」という思いのもと、まったく未経験の紙ジャケット制作に取組むなど、自らの手を動かして価値を生み出そうとするクリエイターとしてのビジョンを持つ。ユーザー拡大に向けアイデアも様々持っており、今後も精力的な活動を期待したい。